



令和3年第1号

令和3年度が始まりました。インターネットを活用した授業や課題の提供からのスタートとなりました。まだ、児童生徒の歓声が響くブラッセル日本人学校の日常とはいきませんが、何か事があるときこそ、これまでのように「励まし合い、支え合い、志高く」行動したいものです。ブラッセル日本人学校だより第一号は、本年度新派遣の先生方の紹介です。

<p>吉沢典子（群馬県）はじめまして。群馬県前橋市から赴任します、吉沢典子（よしざわ のりこ）と申します。以前から「いつかは訪れたい」と憧れていたベルギーで、皆さんにお会いできることを本当に嬉しく思っています。新しい土地、新しい環境での生活に不安はありますが、保護者や児童生徒の皆さん、そして地域にお住まいの方々に教えていただきながら、『不安』を『楽しみ』に変えていきたいと考えています。私自身も『学ぶ』気持ちを忘れずに成長し、一日も早く皆さんのお力になれるよう、努力します。どうぞよろしくお願い致します。</p>	<p>山口大（山梨県）山梨県都留市より赴任します、山口大（やまぐち だい）と申します。都留市には2027年東京一名古屋間が開通予定のリニアの実験線が走っており、勤務校の学区内に実験線センターもあります。はじめのうちは、私から子どもたちに教えることよりも、子どもたちから教わることの方が多いかもしれませんが、早く教えることの方が多くなるように、たくさん吸収したいと思っています。せっかくいただいた機会なので、忘れられない出会いにしていきたいと思っています。よろしくお願いします。</p>
<p>北川雄樹（愛知県）愛知県名古屋市より赴任します、北川雄樹（きたがわ ゆうき）と申します。私が勤務していた学区は日本でも指折りの元気な商店街「大須商店街」がありました。そんな日本の元気をしっかりベルギーの土地までお届け致します。子どもたちが「安心・安全」に学校生活を送れるよう、学習環境を含め学級経営をしていきます。そして「子どもの思いに寄り添う教育」を大切に、子どもたちをしっかりと見つめ、向き合っていきたいと思っています。精一杯子どもたちに尽くしていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。</p>	<p>生野邦江（大阪府）はじめまして。大阪市から赴任して参りました、生野邦江（いくの くにあ）と申します。ヨーロッパの拠点といわれるここベルギーで、子どもたちと学びあえることを楽しみにして来ました。大阪市では、一人一人の考えを伝えあい、学びを深めたり高めたりすることを大切にしてきました。ここブラッセル日本人学校でも、子どもたち一人一人の考えを尊重し、「できた」や「わかった」だけでなく、「こまった」や「どうしよう」こそみんなで考えられるよう、精一杯務めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。</p>
<p>三谷繁寿（広島県）はじめまして。広島県福山市から赴任して参りました三谷繁寿（みたす しげとし）と申します。世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るう中、4月から、ここベルギーで教壇に立てることに喜びを感じると共に、多くの方々からの大きな期待を感じています。「子どもたちと直接会うことができる」「笑顔を共有することができる」ということへの感謝を忘れず、「ブラッセル日本人学校に行ってもよかった。」と、1人でも多くの児童・生徒に感じてもらえるよう、一生懸命に努力して参ります。よろしくお願い致します。🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸</p>	<p>菊地勇介（東京都）アンシャンテ！東京都目黒区から赴任してきました、菊地勇介（きくち ゆうすけ）です。大切にしている言葉は、「メリハリ」「チャレンジ」「失敗から学ぶ」です。私は、学童期を海外の日本人学校で過ごしました。ですので、先生になった時から『いつか日本人学校で働きたい！』という夢を持っていました。今、その夢を叶えることができ胸がいっぱいです！ここに通う子供たちが大人になった時、『ブラッセル日本人学校に通う事ができてよかった！』と心の底から思えるよう、全力で子供たちと向き合っていきます。よろしくお願いします！</p>

渡邊美香（大阪府）はじめまして。大阪府より参りました渡邊美香（わたなべ みか）と申します。好きなことは、美味しいものを食べることに、寝ること、体を動かすことです。好きな遊びはドッジボールとあやとりです。一人一人の個性を大切に、そして子どもたちと一緒に様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。私は生まれ育った大阪が大好きです。日々の生活の中で日本の良さ、ベルギーの良さをたくさん見つけて、日本と同じくらいベルギーも大好きになろうと思います。どうぞよろしくお願いいいたします。🍀🍀🍀🍀🍀🍀🍀🍀

寺澤彩夏（愛知県）はじめまして。愛知県から参りました寺澤 彩夏（てらさわ あやか）と申します。昨年度まではマレーシアに3年間住んでいました。2度目の海外生活ですが、ベルギーという全く違う雰囲気での生活にわくわくしています。日本、マレーシアとの違いを感じながら、ベルギーの良さをたくさん見つけていきたいです。これまでの経験から「出会い」の大切さを感じてきました。日本から遠く離れたここ、ベルギーでの皆様との出会いに感謝し、子どもたちと楽しく過ごしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいいたします。🍀🍀🍀🍀🍀🍀🍀🍀

校長の独り言

【第15話】 食に関して心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなくかきつくればの前号から引き続き、食に関する話を続けさせていただきたいと思ひます。新年度の始まりです。皆様よろしくお願いい致します。今回は味覚の話です。前はジャ

ガイモは野菜なのか？を考察し、フリッツは料理なのか？に言及しました。ヴォルデモート氏（例のあの人）は、フリッツはもちろん、米も野菜ではないかとのたまひ始めており（正確には、米は温野菜ではないかと。確かに大地の恵みであり、穀類は野菜かと言われると明確な定義はないようですが・・・）実は奥様の栄養管理のおかげでそんな暢気なことをいってられるのだと気づかぬうっかり者の一面もおありだという指摘については頬被りを決め込んでおられます。そんなこと自明、と自覚しておられ、照れ隠しであろうというのが当方の見立てです。イチゴは野菜である（スイカやメロンも）ことなどから、お米を温野菜と言われても、明確には否定できない不勉強な私ではありますが、なんか自分に都合の良い論理展開をされているのではないかとこのように納得はできかねるところではあります。

食に関してのお話をして参りましたが、今回は味覚のお話をしてみたいと思ひます。「お子ちゃまは、苦いのか酸っぱいのが苦手」という論考。これは自己防衛本能といわれています。苦い辛い酸っぱい、食感がヌルとするなどに共通するのは？実は腐敗や毒物です。子供は生存本能、自己防衛本能を強く持っており腐敗や毒物を本能的に遠ざけようとします。よって、苦い辛い酸っぱいを忌避する傾向があるのは当然といえます。しかし成長するに従ひ後天的な知識や経験として苦い辛い酸っぱいヌルとするものにも食べられるものがあると知り、実はうまいと感じるようになります。むしろ、大人の味として癖のある味を好物になったりするわけです。

子供の頃は好き嫌ひが多かったりしますが、ほとんどがこのメカニズムによるものと思ひます。皆さんも子供の頃嫌ひだったものを今では食べられる、大好きになったといったものがあるのではないのでしょうか。

もちろん、今でも苦手な食べ物はあると思ひます。その場合は対象の苦手なものの最上級かつ旬のものを食べてみて下さい。奮発して思いっきり高い物を、きちんとプロの手により料理されたものを。うわっ。こんなにおいしいものを今まで食べてなかったのだと思ひ直すことになるかもしれません。以前、ウニが嫌ひな友人に最高級の寿司屋でこの論法で説得し、食べさせたところ大成功したことがあります。その後ウニが大好きになったのですが、失敗しました。ウニ嫌ひのままいてくれたなら安上がりだったのに・・・。私は子供の頃、野菜一般が大嫌ひでした。昔は野菜が苦かったりしたのも事実です。ピーマンは癖のある味で、トマトには独特の臭ひがありレタスにさえ苦みがありました。幼少の頃、トマトスライスに砂糖をかけて食べていた思ひ出があります。えーっ！と今では自分でも思ひます。

昔も今も、世の母親たちは子供に野菜を食べさせるために大変な努力をしていたのだと思ひます。とにかく刻んで見た目をわからぬようにして、子供に人気あるメニュー、ハンバーグやオムレツ、餃子やチャーハンに大量の野菜を混ぜこみます。カレーやシチューなどにいれて煮込み、野菜に気づかず子供が完食すると、陰でガッツポーズとか日本中の家庭で展開されている悲喜交々のエピソードではないのでしょうか。にんじんをハート型にカットして形で攻めるなどの方法もありますが、男の子にはあまり通用しない戦法です。

我が子には健康に育ち幸せになってほしいと願う親心。今も昔も、その苦勞たるや大変なものですよ。なんですよ。子供たちよ。 つづく